

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	清 水 祐 輔
審査担当者	主査 教授 田 中 真 樹 副査 教授 生 駒 一 憲 副査 准教授 飛 驒 一 利 副査 教授 久 住 一 郎		

### 学 位 論 文 題 名

大うつ病性障害の心理社会機能に認知機能障害が与える影響  
および認知機能リハビリテーションの効果に関する研究

大うつ病性障害 (major depressive disorder: MDD) では心理社会機能が著しく低下しているが、その原因のひとつとして神経認知機能の異常が指摘されている。しかし寛解期の患者で両者の関係について調べた例は少なく、神経認知機能障害の治療も確立されているとは言い難い。そのため、本研究では神経認知機能と心理社会的機能の指標の1つである quality of life (QOL) との関係进行调查し、前者の治療法である認知矯正療法 (Cognitive Remediation Therapy: CRT) の効果を検討した。その結果、言語記憶は臨床因子の影響を考慮しても QOL と関連していることが示された。また、CRT によって神経認知機能や他覚的な心理社会機能は改善したが、自覚的な心理社会機能の改善は認めなかった。

質疑応答では、生駒一憲教授より神経認知機能の障害の患者の自覚について、飛驒一利准教授からは MDD の神経認知機能障害の脳科学的な基盤について、田中真樹教授からは抗うつ薬用量と神経認知機能の相関および言語記憶の責任脳部位について、久住一郎教授からは、CRT をどのようなリハビリテーションと組み合わせで行うのがよいと考えているかについて質問があった。いずれの質問に対しても、申請者は MDD および関連疾患に関するこれまでの研究結果を引用し、また、今回の研究結果をふまえて、これまで明確になっている部分と今後検討されるべき課題についての的確に解答した。

この論文は MDD の神経認知機能の障害と心理社会的機能の関係およびその治療法について検証した論文として高く評価され、今後の研究により効率的な MDD の治療法が発展していくことが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。